

岐阜女子大学研究ブランディング事業報告会「記憶のチカラ」
～デジタルアーカイブが新たな価値の基盤を創る～

—第14回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2020年2月11日(火・祝) 13:00～15:55
会 場 岐阜女子大学 文化情報研究センター 5階 第4教室・東
コーディネーター: 井上 透 (岐阜女子大学)

プログラム

1. オーラルヒストリーを用いたデジタルアーカイブの伝統・文化教育への利用
(13:00～13:15)
谷 里佐 (岐阜女子大学)
 2. 「美濃流し仁輪加」と「沖縄のザンマイ」
(13:15～13:30)
大城 學 (岐阜女子大学)
 3. 小学校社会科における地域教材のデジタルアーカイブの活用
ZOOM (13:30～13:45)
比嘉 勇太 (沖縄女子短期大学)
 4. デジタルアーカイブの利活用のためのコミュニティ形成の実践
ZOOM (13:45～14:00)
眞喜志 悦子 (岐阜女子大学)
 5. デジタルアーカイブの開発機関(者)と活用コミュニティとのフィードバック形成の課題
～「沖縄おうらい」の観光での活用実践から～
ZOOM (14:00～14:15)
加藤 真由美 (岐阜女子大学)
- 【休憩 10分】
6. Wikipediaの大学教育と地域連携への活用 —実践事例と課題—
ZOOM (14:25～14:40)
皆川 雅章 (札幌学院大学)
 7. コミュニティデジタルアーカイブの可能性～国士舘大学からの視座～
ZOOM (14:40～14:55)
坂井 知志 (国士舘大学)
 8. 駿河国の眼科医伊達本益所蔵の市川團十郎関連資料のデジタルアーカイブについて
(14:55～15:10)
木村 涼 (岐阜女子大学)
 9. 全学部共通必修科目におけるドローン操縦体験講義
～ドローンはデジタルアーカイブにとっても必修技術～
(15:10～15:25)
熊崎 康文 (日本アーカイブ協会)
 10. AI時代におけるデジタルアーカイブのあり方
(15:25～15:40)
井上 透 (岐阜女子大学)
 11. アーカイブ機関、つなぎ役(統合ポータル、ハブ等)の還元情報管理のためのメタデータの研究
(15:40～15:55)
三宅 茜巳 (岐阜女子大学)

※発表時間は12分、質疑応答は3分を予定しております。

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局(岐阜女子大学)

〒500-8813 岐阜市明德町10番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内

電話 : 058-267-5301(日本デジタル・アーキビスト資格認定機構)

第14回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

1. オーラルヒストリーを用いたデジタルアーカイブの伝統・文化教育への利用

(13:00~13:15)

谷 里佐(岐阜女子大学)

オーラルヒストリーのデジタルアーカイブは、話者の表情・身振り手振りなどを映像などにより表現することを可能にし、話の映像などを何度も視聴することが出来るため、人の思いや体験を伝える伝統・文化教材に適している。そこで、世界遺産白川郷の「和田家当主オーラルヒストリー」のデジタルアーカイブを用いて『和田先生と学ぶ白川郷和田家』という伝統・文化教材を作成し、実際に利用した小学生および担当教員にアンケート調査を行った。その結果を報告する。

2. 「美濃流し仁輪加」と「沖縄のザンマイ」

(13:15~13:30)

大城 學(岐阜女子大学)

本稿では岐阜県の「にわか(美濃流し仁輪加)」と沖縄県の「バラシキョンギン(笑わせ狂言、ザンマイ)」を比較考察した。滑稽、洒落、風刺などを命としている点で「にわか」と「ザンマイ」は共通する。ザンマイは即興的に演じる仕草や踊りを面白く踊ってみせることを観客が楽しんでいる。つまり、口上よりも踊り上手な者が人気を博する。ザンマイと本土の「にわか踊り」は相対関係にあるのではないか。調査研究を進めてみたい。

3. 小学校社会科における地域教材のデジタルアーカイブの活用

ZOOM (13:30~13:45)

比嘉 勇太(沖縄女子短期大学)

沖縄女子短期大学の学生らが各自撮影した画像等のデータをネットワークアタッチメント(以下、NAS)上の共有のファイルにアップロードした際に、1つのファイルに保存されること、メタデータの付与までに時間がかかること、活用する際に画像の検索が難しいことなどがこれまで課題としてあげられていたことから、地域教材作成のための素材をデジタルアーカイブとして保存する際の保管方法の統一化、また一覧としてのデータ管理と素材を検索し、活用を容易にする検索ツールの開発している。

地域教材となる素材ファイルのメタデータ付与・保管・提示のための検索等を容易にするツールの開発が進む一方、素材の選定・評価については未だ検討がなかったことから、データを一時保管(Item Pool)した後の短期利用(Item Bank)または長期利用(Item Bank)なのかという選定評価について研究を進める。また、メタデータの構成と記録項目及びシソーラスを統制化させ、社会科の地域教材としての集合保存を学校教育現場で教員間が利活用を促進することで本地域教材の実践・評価・改善を行い、「知の増殖型サイクル」を適用し、教員による利用が容易なデジタルアーカイブ、コンテンツの開発を実施する。

4. デジタルアーカイブの利活用のためのコミュニティ形成の実践

ZOOM (13:45~14:00)

眞喜志 悦子(岐阜女子大学)

三宅 茜巳(岐阜女子大学)、佐々木 恵理(岐阜女子大学)、

加藤 真由美(岐阜女子大学)、後藤 忠彦(岐阜女子大学)

デジタルアーカイブの利活用の整備が進みだし、その活用成果のフィードバックが始まりました。デジタルコンテンツをより役立たせるには、その活用を支援する組織・グループ等のコミュニティが必要である。また、活用の成果を関係者やデジタルアーカイブ機関にフィードバックして、より価値の高いデジタルコンテンツの作成には関係資料、どのように改善したかの情報、多くの活用の成果を集めることが重要である。本稿では、2013年からの沖縄でのコミュニティの構成とその活用支援の役割について、実践報告する。

5. デジタルアーカイブの開発機関(者)と活用コミュニティとのフィードバック形成の課題 ～「沖縄おうらい」の観光での活用実践から～

ZOOM (14:00~14:15)

加藤 真由美(岐阜女子大学)、

加治工 尚子(岐阜女子大学)、林 知代(岐阜女子大学)、後藤 忠彦(岐阜女子大学)

デジタルアーカイブの利活用が、本学で本格的に始まったのは「沖縄おうらい」(2011年)からである。当時の課題は利活用の成果についてどのようにフィードバックさせ、改善をするかであった。活用コミュニティからのフィードバックを整理・改善し、その後、活用者への活用情報のフィードバックにより、より有効な活用へと発展させる必要性が出てきた。そこで、今回「沖縄おうらい」のデジタルコンテンツを用いて、実践と成果のフィードバックの整理、フィードバックによる改善、活用に役立つ情報の活用者への還元について、その必要性と双方向システム構成についての試案を報告する。

<p>6. Wikipedia の大学教育と地域連携への活用 —実践事例と課題—</p> <p style="text-align: right;">ZOOM (14:25~14:40) 皆川 雅章 (札幌学院大学)</p> <p>地域の歴史と文化に関する Wikipedia の記事作成を大学における教育活動の中に取り入れ、地域の公共施設との連携を図るための方策を探る。今年度、法学部の学生を対象とした専門ゼミナールにおいて、デジタルデータの扱い方から Wikipedia の記事執筆、検証までの一連の作業を経験させた。江別市情報図書館と郷土資料館を対象として実施した記事作成の作業過程と、一連の取組みにおける課題について報告する。</p>
<p>7. コミュニティデジタルアーカイブの可能性～国土館大学からの視座～</p> <p style="text-align: right;">ZOOM (14:40~14:55) 坂井 知志 (国土館大学)</p> <p>現在、国土館大学ではスポーツに関するデジタルアーカイブやイラク古代文化研究所のデジタルアーカイブ構築を2020年度から始めることとしている。その検討過程から見てきたことは、スポーツ分野は一大学で取り組みを構築することと、他大学、そして競技別のコミュニティデジタルアーカイブを日本全国、アジア、世界と広げる視点の重要性であった。また、スポーツを安心安全にするための「救急救命」や「防災」等々の国土館大学での取り組みをデジタルアーカイブ化することや更にその分野をコミュニティアーカイブとして広げることの意義についても述べる。</p>
<p>8. 駿河国の眼科医伊達本益所蔵の市川團十郎関連資料のデジタルアーカイブについて</p> <p style="text-align: right;">(14:55~15:10) 木村 涼 (岐阜女子大学)</p> <p>旅をしていた五代目市川海老蔵(＝七代目團十郎)は目の治療のため、駿河国富士郡神谷村(現静岡県富士市)の眼科医伊達本益の元を訪れた。これを機に海老蔵と伊達家の交流は、次第に家族ぐるみへと発展していった。伊達家には市川團十郎家から送られた資料や海老蔵、八代目が伊達家を訪れた時に使用していた資料が残されていることが調査で判明している。そこで、具体的にどのような資料がどのような状態で所蔵されているのか、調査状況及びデジタルアーカイブの進捗状況と課題について報告する。</p>
<p>9. 全学部共通必修科目におけるドローン操縦体験講義 ～ドローンはデジタルアーカイブにとっても必修技術～</p> <p style="text-align: right;">(15:10~15:25) 熊崎 康文 (日本アーカイブ協会) 安藤 久夫 (日本アーカイブ協会)</p> <p>岐阜女子大学で全学部の学生全員にドローンの操縦体験に関する講義を実施した。ドローンは今後デジタルアーカイブにとっても必修技術になる可能性があることも配慮した。ドローンに関する基本的な構造や知識、操縦方法、操縦時の注意点等について指導した後、学生全員に操縦を体験させた。講義の概要、経緯、受講した学生に実施したアンケート結果等を報告する。</p>
<p>10. AI 時代におけるデジタルアーカイブのあり方</p> <p style="text-align: right;">(15:25~15:40) 井上 透 (岐阜女子大学)</p> <p>デジタルアーカイブは、知識循環型社会を支える知識基盤として、空間的にはインターネットを通じて世界中に公開され、さらに時間軸ではアーカイブの語源にあるように継続的に提供される性格を持っている。インターネットは世界のデジタルアーカイブから様々な知識を探求することを可能としたが、現在のネット環境では、検索エンジンに内包されたアルゴリズムであるディープラーニングを前提にした AI の提供する情報、つまり、自分の思考に近い情報だけで判断するエコーチェンバー現象の克服が課題になっている。そのため、セレンディピティーとされる、AI に依存しない偶然的な出会いや思いがけない発見が必要であり、デジタルアーカイブはこのプロセスをサポートするデータ提供のあり方を模索しなければならない。</p>
<p>11. アーカイブ機関、つなぎ役(統合ポータル、ハブ等)の還元情報管理のためのメタデータの研究</p> <p style="text-align: right;">(15:40~15:55)</p> <p style="text-align: center;">三宅 茜巳(岐阜女子大学)、 櫛彩見(岐阜女子大学)、眞喜志悦子(岐阜女子大学)、谷里佐(岐阜女子大学)、 加藤真由美(岐阜女子大学)、久世均(岐阜女子大学)、井上透(岐阜女子大学)、 後藤忠彦(岐阜女子大学)</p> <p>デジタルアーカイブは、デジタルコンテンツの提示・提供から、人々のもつ課題の解決、知的創造、作品の創作活動などに活用されだした。さらに活用した成果を還元させ、次の活用で役立たせるようになってきた。この還元資料を有効に活用するためには、各機関のデジタルアーカイブにフィードバックデータをいかに追加・保管するかが課題になってきた。そこで、今回、これまでの岐阜女子大学の実践研究をもとに、活用成果である還元情報を記録するメタデータの構成を検討したので報告する。</p>

※発表時間は12分、質疑応答は3分を予定しております。